

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	平成29年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かで静かな地域の中で、利用者様が、社会の一員として「自由に、楽しく、笑顔で」自分ができる事を継続しながら生活して頂けるように支援しています。また、御家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体医療法人の病院に近く、系列の障害者社会復帰支援施設と同敷地内にある。運営推進会議は地域から自治会長など4名の他、複数の家族の出席があり、情報交換、要望、提案が多く、その都度、職員が対応し運営に反映している。更に議事録から利用者が地域行事に積極的に参加し交流する様子が窺い知れる。職員は利用者の希望に応じ外出支援やレクリエーション、巡回図書の利用や菜園の作業など、自由に楽しく過ごせるよう工夫し、利用者の笑顔に繋げている。法人の夏祭りの会場は自治会の要望により地区の運動場を使い、地域住民、行政など800名が参加する一大イベントになっている。又、在宅介護や一人暮らしが困難な住民の受入れ相談があるなど、地域に信頼され繋がりがより深くなっている。今年度、看取りに取組むなど更なる理念の具現化に取り組んでいる事業所である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

グループホームあじさい ユニット1
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に掲げると共に事業所内にも掲示している。朝の申し送りの際には唱和を行い実践に繋げるようにしている。	理念は「地域に密着した開かれた運営」であり、ケア理念は「自由で楽しく笑顔で」を掲げている。利用者は事業所のあじさい畑で自由に作業を楽しんだり、地域行事に参加し交流するなど、理念に沿った支援となっている。あじさい便りや事業所内に理念を明示し職員は具現化を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の把握に努め参加するようにしている。地域の行事への参加や近隣への散策の際には地域の方に声をかけて頂く事もあり交流が出来ている。	運営推進会議に4名の地域の参加があり地域と事業所との情報交換の場がある。地域行事に職員と利用者が参加しており今期、町民文化祭に利用者作成の貼り絵を展示し交流の場が広がった。法人夏祭りに、地域、行政、家族を含む800名の参加があり地域に根付いた事業所である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グリーンハートせちばるの一員として福祉活動に参加している。運営推進会議では施設内の実践の状況を伝えるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われる運営推進会議では利用者様の実態やサービスの取り組み状況等の報告を行っている。意見交換で得たことはサービス向上に活かすように努めている。	会議は、規程の参加者で開催している。参加者の要望や助言に対し事業所の考え方をその都度説明している。地域参加者からヒヤリハット事例の報告要望の提案があり、その後会議の中でヒヤリハット事例を報告している。今後、会議内容を欠席者や家族に伝える意向である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が利用されていることもあり、市町村担当者の方と連絡をとることも多い。文書や電話だけでなく窓口へ足を運ぶようにしている。	職員は、市の窓口へ介護申請に出向いている他、毎月行政の来訪もあり協力関係を構築している。地域行政センターから福祉祭りの案内があり、職員と利用者が参加している。福祉祭りは、行政、地域住民、介護事業所の参加があり、参加者間で福祉に関する理解を深める機会となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ内事業所と共に高齢者虐待も含めて学ぶ機会がある。常日頃より身体拘束にしないケアに努めている。	身体拘束は外部講師による年2回の法人内研修の実施や職員合同ミーティングで全職員への内容の理解、共有を図っている。又、言葉の拘束は、その都度職員同士で注意しあい、外に出る利用者には職員が付き添っている。日中の玄関の施錠はなく拘束のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会があることで、以前にも増して日頃の言動をお互いに声を掛け合い、虐待防止を意識する事ができるようになってきている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会において学ぶ機会があった。実際にあんしんセンターや成年後見制度を利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時だけでなく改定時にも説明を十分に行った上で納得、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、運営推進会議や来所時には発言しやすい雰囲気作りに努めている。意見や要望は申し送りやミーティング時に伝え職員間で共有できている。	玄関に意見箱の設置や苦情処理の図式を掲示している。又、苦情相談窓口を明文化し、契約時に家族へ説明している。事業所便りや個別に利用者の暮らしぶりや状況を知らせる手書きの便りは家族に喜ばれている。家族の面会時には意見・要望が出しやすいような雰囲気づくりや声掛けをするなど意見要望の抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや日々の業務の中で意見交換の場がある。意見や要望、提案によりできることから実施している。	職員は、毎月のフロアミーティングや業務の中で管理者へ意見・要望を提案できる場がある。又、個別の相談は必要に応じて代表が面談し聞き取っている。休みや研修の希望を聞くなど管理者は働きやすい職場づくりに努めている。防犯のための窓の2重ロックなど職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により把握してもらう様にしている。労働時間や休日希望等意見交換行いながら対応してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会があり参加を積極的に進めている。学んだことはミーティングで報告する時間を設け、参加できなかった職員も学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会が主催する研修会、交流会に参加したり、グリーンハートせちばるの一員として地域や同業者の人と一緒に活動、交流して情報交換を行ったりしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話の中から思いや要望を引き出し、それを大切にしながら安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様とも十分に意見交換を行い安心して頂けるように説明している。またいつでも気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態や家族の意見、費用等も含めて説明を行い意見交換している。必要時は他に利用できるサービスについても説明を行い、納得して利用して頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大事にしており利用者の方と職員が家族のような関係で支え合えるように心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの近況報告を行ったり、面会時には意見交換を行う様にしている。時には一緒に考えて協力して対応することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくりと話が出来るように心掛けている。また、利用者の希望で近所に買い物に同行したり入所していた施設や病院等に訪問することもある。	家族や入院時に知り合った友人が面会に訪れたり、2ヶ月毎に利用者の馴染みの美容院の訪問がある。自宅へ外泊する利用者もいる。職員は、利用者の馴染みのスーパーへ買い物同行したり、長期入院していた病院や以前入所していた施設の訪問へ同行するなど馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握した上でリビングでの座席や入浴の順番を工夫し、トラブルや孤立がないように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても電話や来所での相談があることがあるので、その都度必要に応じて対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が自分の思いを表現できるように接し、言動の中で把握するように努めている。困難な場合は御家族様も含めて話し合い対応している。	職員は、入浴時や居室に於いて個別の対話を実施し、得た情報は、申し送りやミーティングで共有している。現在、口頭で伝えており、その都度情報をメモする等模索中である。発語困難や難聴の利用者は、答えやすい声掛けの工夫や顔の表情から思いを汲み取るよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には事前訪問を行い、本人様や御家族様等関係者より聞き取りを行っている。病院や事業所等からの情報は文書で確認して状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、申し送りノートを活用して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や御家族様の意向やアセスメントをもとに担当者会議の中で意見交換を行い、介護計画書を作成している。実践状況は毎日記録しモニタリングに活かしている。	利用開始1ヶ月後暫定支援計画の見直しを行っている。利用者の日々の生活状況から職員が支援内容を提案し家族、利用者の要望を聞きケアマネジャーが作成している。短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し、日々支援内容を確認の上、新しい情報取得時や体調変化時は、その都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、介護計画書の実践を個別に記録している。個別の情報は申し送り、カンファレンス等で共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて話し合いを持ち、御家族にも相談しながら希望や意向に添えるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調や希望により地域行事への参加を勧めている。保育園児の訪問や月1回の巡回図書での紙芝居はとても楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様や御家族様の意向に添って決められており、受診、相談等の対応を支援している。必要時は御家族様にも対応頂き状態把握に努めている。	かかりつけ医は継続しており、基本的には家族の受診支援であるが、できない場合は職員が対応している。利用者の状況により家族と職員が同行する事例もある。医療機関の協力体制があり、利用者の夜間の急変時の対応の流れも確立している。受診内容は、家族と職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時、異常発見時には報告や相談を行い対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には口頭や文書にて情報提供を行い、御家族様も含めて情報交換を行い状態把握に努めている。退院時にも病院より情報提供して頂き、退院後の体調管理に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には必ず説明を行い確認をとっている。終末期が近づいた時には御家族様や主治医を含めた関係者と早目に相談を行いチームで支援できるような体制を整えるようにしている。	事業所は、看取りに関する指針を文書で表明している。利用開始時、家族・利用者に説明を行い同意を得ている。今期看取りの事例があり職員や主治医、協力医、家族の連携で看取りを行った。看護師職員の助言や看取りに関する研修を受講し、職員の不安をなくすよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設置すると共に落着いて対応が出来る様訓練を時々行い、確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署、近隣施設との合同訓練を行っている。その他定期的な施設設備の確認を行い、防災の日を設定して月1回の自主訓練を行っている。	夜間想定消防自主訓練を2回と災害に関するDVD視聴など自主訓練を毎月実施している。前回の課題は、訓練後の総評や気づきを記録し、次回訓練に活かし改善している。自然災害時の具体的なマニュアルの整備や避難訓練の実施、非常持ち出し品の整備はこれからであり、全職員の訓練参加もまだである。	自然災害時の具体的なマニュアルや避難訓練の実施と非常持ち出し品の整備が望まれる。又、職員全員が消防及び災害訓練に参加できる体制整備に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に穏やかな声かけを心掛け、居室入室時や入浴時排泄誘導時には特に配慮するようにしている。	職員は契約時に守秘義務の誓約書を提出している。個人情報の取り扱いには明文化し、契約時に家族へ説明し写真掲載を含め同意の署名を得ている。職員は居室へ入るときはドアをノックし、排泄誘導や入浴介助時など尊厳を傷つけない言葉掛けや支援を心掛けている。ただし、居室ドアの縦長すりガラスから室内が窺える。	利用者の覗き見られる不安の解消やプライバシーを守るため、すりガラスへの対応・工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすいような言葉かけを行い促しや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分に関心しながら希望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には季節に合った服と一緒に選んだり髪型を整える等支援している。服や髪型が似合っている時は誉めておしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭では季節の野菜を種や苗から育てており、一緒に育てて収穫し下ごしらえを行い献立に取り入れている。また食事前後のテーブルやトレイ拭き等できる事を無理なくして頂いている。	国産の材料を使用したメニューは、法人内の栄養士が事業所の意見を取り入れ作成し、系列の社会復帰支援施設が配食している。又、収穫した菜園の野菜で料理を一品追加することもある。利用者は下膳やテーブル拭きなど手伝っている。外食や弁当、季節の行事食や手作りおやつなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した季節の食材を取り入れた献立で配食サービスを受けている。食事や水分の摂取量は個別に記録して、日々の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う様に努めている。自力で出来ない方には支援、介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を心掛け、意思表示があった時にはその都度対応行っている。意思表示ができない方については排泄表をもとに状態に合わせて対応している。	職員は排泄の自立支援を理解し、日中はトイレでの座位排泄を基本としている。又、排泄チェック表や申し送りで利用者のその日の状態を共有し、更にスタッフミーティングで利用者の状態に合ったパッドの種類を話し合い支援に繋げている。おむつからリハビリパンツに移行した事例や排便コントロールが出来た事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの乳製品を取り入れ、水分摂取量にも気を付けている。体操や歩行練習等にも参加頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調に合わせて希望を聞きながら対応行っている。入浴日以外の日でも入ることができるようになっている。	入浴はユニット毎に曜日を違えて準備し、入浴出来なかった場合は翌日、他ユニットで対応している。車椅子の利用者は希望に沿って湯船に浸かったり、シャワー浴などに対応している。ゆず湯や入浴剤、好みの石鹸やシャンプーの持ち込みなど楽しむ支援がある。ただし、入浴は週2回である。	入浴に癒しを感じる日本人の入浴文化を鑑みて、利用者の入浴拒否があるとしても、入浴時の喜びや癒しは大きいものがあると思われる。加えて、利用者の清潔保持のためにも入浴の回数増を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室ではいつでも自由に休む事ができ、リビングではテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休む事ができるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、変更があった時には必ず申し送りを行い情報の共有に努めている。処方薬は名前や日付を確認しながら支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や散歩、菜園の草取りや洗濯物たたみ等体調や気分に応じて無理なく参加頂くようにしている。新聞やテレビは自由に観る事ができるようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や花見等希望により支援行っている。外食はワゴン車の送迎サービスを利用し参加頂いている。	季節の花見や地域の行事に希望を取り、車椅子の利用者も一緒に出掛け、天気の良い日は菜園や散歩、外気浴など積極的に外出し気分転換を図っている。隣接のパン工房やスーパーマーケットへ利用者の希望で同行するなど外出支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望時には同行行い、支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が手紙や電話のやり取りを希望される事は殆んどない状況であるが、荷物が届いた時等お礼の電話の支援を行うことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花木を活け、リビングでは季節に合わせた壁面飾りを一緒に作成したり、散歩時に摘んだ草花を飾ったりしている。	玄関には季節の花を生けている。採光の良いリビングの掃き出し窓からは、山間の四季の移ろいを感じられ、壁に飾った利用者の作品が季節感を演出している。掃除は毎朝、職員が行い、掃除道具やパッド類は利用者や来訪者の目に触れない場所に収納している。消臭剤を工夫するなど快適な空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、ソファ、椅子等を利用して自由に過ごせるようにしている。それぞれが思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れた物を持ち込んでいただき配置している。写真や小物等飾られ居心地良く過ごせるようにしている。	基本的には畳ベッドを配置しているが、利用者の状態に応じてリクライニング式を使用している。掃除は毎朝、換気や空調も適宜職員が行い、清潔な居室を支援している。居室への持ち込みの制限はないものの、馴染みの物がなく、殺風景な居室が多い。又、昼間使用しないポータブルトイレが置いてある。	利用者ひとり一人の好みや使い慣れた馴染みのものを取り入れ、利用者が落ち着ける居心地の良い居室の工夫が望まれる。また、昼間使用しないポータブルトイレの配置は、居室の設えとしての工夫を望みたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心掛け動線には障害物がないように安全に動く事ができるようにしている。絵や文字で自室、トイレ、浴室がわかる様にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	平成29年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かで静かな地域の中で、利用者様が、社会の一員として「自由に、楽しく、笑顔で」自分ができる事を継続しながら生活して頂けるように支援しています。また、御家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に掲げると共に事業所内にも掲示しいつでも目につくようにしている。朝の申し送りの際には皆で唱和し理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域の行事の把握に努め参加するようにしている。七夕まつり、文化祭の作品出展等している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グリーンハートせちばの一員として福祉活動に参加している。運営推進会議では施設内の実践の状況を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の現状やサービスの取り組み状況等の報告、意見交換を行い、サービス向上に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターの方と意見交換を行っている。市長寿社会課、生活福祉課担当者の方と連絡をとりながら業務に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束にならないケアを心がけ業務を行っている。研修に参加したり、ミーティング等で常に話し合い意識付けをして理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して学ぶ機会を持つことができた。職員は身体的だけでなく言葉の虐待について考え、声かけ等にもお互い注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会において学ぶ機会があった。実際にあんしんセンターや成年後見制度を利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時だけでなく改定時にも説明を十分に行った上で理解、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置しており、運営推進会議には御家族様にも出席頂き意見交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングに代表者に参加して頂き、意見、提案等を話し合い、できる事から実施するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により勤務状況を把握してもらう様にしている。ミーティング等で要望を伝える機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加を積極的に進め、様々な研修に参加する機会がある。研修後はミーティングで報告し、参加できなかった職員も学ぶことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会やグリーンハートせちばる活動を中心に参加する機会がある。情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時、本人様の話を傾聴し、本人様の思いを大切にしながら、入所顔安心して生活して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様へも十分に説明を行い、不安、要望、意見等をいつでも気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つのサービスに固定せず、他の選択肢があることも伝えるようにしている相談時に他のサービスの必要性があれば選択が出来るように説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を取り、本人様が出来る事はして頂き出来ない部分を支援するようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの近況報告やあじさい便りを送付し近況を報告している。また面会時には意見交換を行う様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親類の面会時にはゆっくりと話が出来るように心掛けています。また、いつでも訪問して頂けるように雰囲気や関係作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルや孤立がないように座席を工夫し、声かけに注意しながら支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談の電話があったり来所されることもある。その都度対応行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が自分の思いが話せるよう心がけている。その人らしい生活が出来るよう話し合いを持ちながら対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には事前訪問を行ったり、情報を文書で確認して状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、介護記録、ミーティング等で現状を把握し共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や御家族様の希望や意向を聞き、担当者会議の中で意見交換を行っている。介護計画書については実施確認や評価を行い現状に合わせた計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りにて共有に努めている。毎日の実践をもとに評価を行い介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて本人様や御家族と話し合いを持ち、希望や要望に添えるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の訪問や巡回図書での紙芝居がある。地域の行事、花見等は希望、体調に合わせて参加頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医があり、定期受診、相談、往診が出来るよう支援している。必要時は紹介状にて他科受診をすることもある。安心して医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時、異常発見時には報告や相談を行い対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に情報提供を行い、御家族様も含めて定期的に連絡をとり状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には施設のできる事、関係機関との協力体制等を説明して書面でも同意を得ている。状態変化があった時には御家族や医療機関と連絡をとり合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所に設置しいつでも見れる様にしている。時々訓練を行い、実践が身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署、近隣施設との合同訓練を行っている。月1回防災の日を設定して自主訓練を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを忘れず、言葉使いに気を付けて声かけを行っている。居室入室の際はノック、声かけ等プライバシーに気を付けるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の自己決定を大切にしている。自己決定が難しい時には決定がしやすいような言葉かけを行い促しや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分配慮しながら希望を聞いて対応している。日光浴、音楽鑑賞、カラオケ等思い思いに過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には季節に応じた服を着て頂くように一緒に選んでいる。選ぶ際には本人様の希望や色合い等にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態や好みに合わせて食べやすい様に工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は関係事業所の栄養士が作成し、季節や行事に合わせたメニューになっている。偏食になりがちな方には声かけや促しを行い介助を行うこともある。食事量、水分量は記録し日々の状況把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや促しを行い口腔ケアを行っている。自力で出来ない方には介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の意思表示があった時にはその都度対応を行っている。意思表示ができない方については排泄パターンを把握して早目の誘導を心掛けている。排泄の有無は記録して共有している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの乳製品を取り入れ、個々の状態に合わせて体操や歩行練習等声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて希望を聞き対応を行っている。希望に応じて入浴日以外の日でも入ることができるようになっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人その日の状態、気分に合わせて自室、畳、ソファで休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、処方薬については申し送り、確認を行い共有に努めている。内服薬については個人ファイルで確認ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやちり紙折り等その日の体調に合わせて手伝って頂いている。新聞やテレビは自由に観る事ができ、レクリエーションも希望を聞き行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食時はワゴン車の送迎サービスを利用しドライブを兼ねて参加頂いている。希望時は買い物、散歩に付き添いも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望時には同行行い、支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分より希望して手紙や電話のやり取りをされる方は殆んどいない。希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ホワイトボードや壁に貼り紙や折り紙等の作品を掲示している。室温やにおい等にも注意を払っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは畳、ソファがあり自由に過ごさせている。その日の気分に合わせて新聞購読やテレビ視聴して過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れた物、写真、小物等配置し居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には障害物がないようにして転倒防止に努めている。整理整頓を心掛け絵や文字、てすり利用等でわかりやすく安全に動けるようにしている。		